

第9回フードバンク こども応援全国プロジェクト 活動報告書



一般社団法人
全国フードバンク推進協議会

給食のない長期休みの期間にこそ 子どもたちを支援したい

フードバンクこども応援全国プロジェクト

一般社団法人全国フードバンク推進協議会は、2021年から給食のない夏休みや冬休み期間中に「フードバンクこども応援全国プロジェクト」を実施しています。「フードバンクこども応援全国プロジェクト」は、子どものいる困窮世帯への食料支援を全国拡大するために加盟フードバンク団体とともに実施しており、多くの企業・団体・個人の皆様からのご支援により、この度9回目のプロジェクトを実施することができました。

本プロジェクトでは、ご賛同いただいた協力企業の皆様からたくさんの食品をご寄贈いただいたことで、43,407世帯に食品を届けることができました。

本プロジェクトを支えてくださった皆様への感謝を込めて、ご報告させていただきます。

協力企業の皆様（五十音順）

 アサヒグループ食品株式会社	 APA HOTEL	 創業明治37年 塩水港精糖株式会社 ENSUIKO SUGAR REFINING CO., LTD.
 公益財団法人 オリックス宮内財団	 岐阜アグリフーズ株式会社	 STEFANY GINZA TOKYO
 Coca-Cola BOTTLERS JAPAN INC.	 Shin-u	 全農®
 みつ花印の 東洋精糖株式会社 Toyo Sugar Refining Co., Ltd.	 一般社団法人 日本最適化栄養食協会	 はたけのみかた
 健康にアイデアを meiji	 素材、きわだつ。 モランボン	 理研ビタミン株式会社

企業の皆様からの多大なるご支援により、本プロジェクトにおきましては、参加フードバンク団体を通して、支援を必要とされる世帯の皆様にご提供いたしました。

参加フードバンク団体の皆様

第9回フードバンクこども応援全国プロジェクトでは、49の加盟フードバンク団体様にご参加いただきました。全国のフードバンク団体様にご参加いただいたおかげで、本プロジェクトでは43,407世帯に食の支援を行うことができました。
誠にありがとうございました。

- NPO法人フードバンクイコロさっぽろ
- 認定NPO法人フードバンク岩手
- 一般社団法人フードバンクいしのまき
- 一般社団法人フードバンクあきた
- NPO法人フードバンク茨城
- NPO法人フードバンクあしかが
- NPO法人フードバンクネット西埼玉
- NPO法人フードバンクいるま
- NPO法人フードバンクふなばし
- NPO法人フリースタイル市川
- とうかつ草の根フードバンク
- NPO法人フードバンク調布
- NPO法人フードバンクTAMA
- NPO法人フードバンク八王子えがお
- NPO法人フードバンク狛江
- 認定NPO法人フードバンク湘南
- NPO法人フードバンクにいがた
- NPO法人新潟県フードバンク推進協議会
- フードバンクしばた
- フードバンクながおか
- 認定NPO法人フードバンク山梨
- 認定NPO法人富士の緑とフードサポート
- NPO法人NPOホットライン信州
- NPO法人POPOLO
- NPO法人フードバンク愛知
- 一般社団法人フードバンクびわ湖
- フードバンク滋賀
- フードバンク泉佐野
(NPO法人キリンこども応援団)
- フードバンク神戸
(NPO法人神戸子ども食堂ネットワーク)
- 認定NPO法人セカンドハーベスト京都
- 認定NPO法人フードバンク奈良
- NPO法人フードバンク和歌山
- 順正デリシャスフードキッズクラブ
(学校法人順正学園)
- 認定NPO法人ハーモニーネット未来
- NPO法人フードバンク山口
- フードバンクうわじま
- 一般社団法人愛媛県晴活
- 認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
- フードバンクありあけ
- ふくおか筑紫フードバンク
- NPO法人いるか
- NPO法人フードバンクさが
- 一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき
(つなぐBANK)
- フードバンクひのくに
(NPO法人ひのくにスマイルプロジェクト)
- 一般社団法人LALASOCIAL
(フードバンクみやざき)
- NPO法人てしおて (フードバンクてしおて)
- NPO法人フードバンクそお
- フードバンク大隅
- NPO法人フードバンク奄美

支援実績

実施時期：2025年7月1日～8月31日

支援対象：子どものいる困窮世帯

支援世帯数
合計
43,407世帯

直接支援
29,082世帯

間接支援
14,325世帯

直接支援：子ども食堂等の他団体への提供分を除いた、自団体から支援世帯へのパントリー活動や
配送による延べ支援世帯数（お弁当は除く）

間接支援：パントリー活動等を行う子ども食堂等、他団体へ提供した食品の重量を世帯数に換算

活動の様子

① 企業様からの食品寄贈

今回のプロジェクトでも、たくさんの食品を寄贈していただきました。



とうかつ草の根フードバンク



NPO法人フードバンクイコロさっぽろ

② 提供する食品の箱詰め

参加フードバンク団体様から子育て世帯に向けて、色々な食品を（メッセージカード等とともに）1世帯ずつ箱に詰めていただきました。



認定NPO法人フードバンク湘南



認定NPO法人フードバンク岩手

③ フードバンク団体の活動の様子

フードバンク団体のスタッフやボランティアの皆様をはじめ、たくさんの方々にご協力いただきました。



認定NPO法人フードバンク岩手



認定NPO法人フードバンク山梨



NPO法人フードバンク茨城



順正デリシャスフードキッズクラブ
(学校法人順正学園)

④ 食品のお渡し・発送

箱詰めした食品を子育て世帯へ直接配送する他、各地のフードバンクパントリーや子ども食堂等を通じて、食料支援を実施しました。



NPO法人フードバンクそお



フードバンクしばた



NPO法人POPOLO



認定NPO法人フードバンク奄美

⑤ 利用者さまからの声

利用者の方々から感謝のメッセージをいただきました。

この度は支援の品を送っていただき
ありがとうございました。
普段子どもに買えないお菓子がたくさん
入っていて、大喜びしていました。
夏休みは給食がなく、食費がとて
増えるので、大人が食べる量を減らした
りしてしのいでいますが、今回これだけ
たくさん品をいただき、本当に助かり
ます。これからありがとうございました。
大切にいただきます。

おけてみたらいっぱい
いはい、てびくびくしまし
た。とてもうれしかったです。
ありがとうございました。
今とてもお米が高いので、
2袋も入っていて本当にありがたい
です。お米以外にもおいそうな
ものばかり。食べるのが楽しみです。
やさしい方達の気持ちがとてもいい
いもあなかも満たされます。
本当にありがとうございました!!

認定NPO法人セカンドハーベスト京都
の受益者から

認定NPO法人フードバンク山梨
の受益者から



一般社団法人フードバンクあきた
の受益者から

団体様への インタビュー 1

プロジェクトに参加されたフードバンク団体へ、インターン生と共に弊会よりインタビューを実施しました。

＜認定NPO法人セカンドハーベスト京都＞ 理事長 澤田様

Q：普段の活動内容について教えてください。

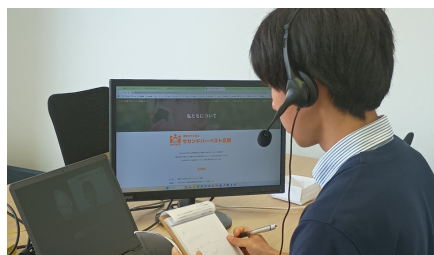
福祉施設やこども食堂等への「フードバンク活動」、行政の福祉部門や社会福祉協議会等からの要請に基づいて食品支援パックを提供する「食のセーフティネット事業」、就学援助を利用している準要保護の世帯へ長期休暇中に食品を届ける「こども支援プロジェクト」、小学校等での出前授業を実施する「食品ロス削減啓発事業」の4つの活動に取り組んでいます。



今回のプロジェクトの様子
(認定NPO法人セカンドハーベスト京都)

Q：活動にあたって大切にしていることや団体の理念について教えてください。

お腹を空かして辛い思いをしている子どもを一人でも減らしたいという思いから、「明日の食に不安のない京都」をビジョンに掲げています。その実現のためのミッションとして、京都府内に「食のセーフティネット」のネットワークを構築することを目指して活動しています。



弊会でのインタビュー時の様子（事務局）

Q：今回のプロジェクトでの具体的な活動について教えてください。

学校と教育委員会を通じて案内を配布し、夏休み開始に間に合うよう、申し込みのあった世帯へ食品を宅配しました。対象は京都市・宇治市・八幡市に加え、今回は宇治田原町も含めた4地域で、支援世帯数は去年の1,000世帯から1,200世帯へと2割増加しました。京都府および府社会福祉協議会からの助成金、政府備蓄米の活用により、食品の種類・重量の両面で内容を拡充することが出来ました。お菓子やそうめんなど季節感のある品に加え、米も従来の2kgから5kgに増量され、1件あたりの配布重量が増えました。

Q：こども支援プロジェクトについて、今後の展望があれば教えてください。

「こども支援プロジェクト」の案内を1,000世帯に送ったところ、約35%にあたる350世帯から申し込みがありました。京都府内には約13,000世帯の就学援助受給世帯があり、同様に35%が支援を必要としているとすれば、約4,500～4,600世帯が対象と見込まれます。今回のプロジェクトで支援できたのは1,200世帯で、全体の約25%にあたります。今後は、より多くの世帯を支援するため、対象地域と件数の拡大が必要です。ただし、セカンドハーベスト京都1団体だけでは限界があるため、協力団体を募り、共同での取り組みが不可欠です。

団体様への インタビュー 2

<NPO法人フードバンクふなばし> 理事長 笹田様

Q：団体設立の経緯について教えてください。

船橋市で15年間、民生委員・主任児童委員として活動する中で、子どもたちを取り巻くさまざまな課題を実感してきました。2017年には子育て仲間と子ども食堂を立ち上げ、「フードバンクちば」からの食材提供を通じて、フードバンクの仕組みを知りました。身近に支援を必要とする家庭があっても、当時は直接的な支援ができず歯がゆさを感じていたことから、2018年に「フードバンクふなばし」を設立しました。

Q：活動にあたって大切にしていることや団体の理念について教えてください。

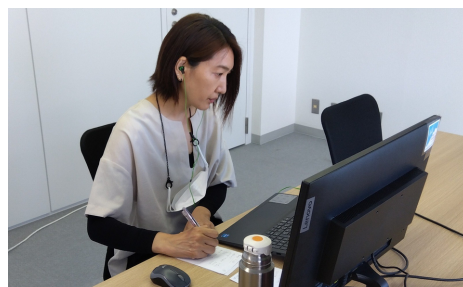
設立当初から関わっているのは、子育てを終えた“お母さんたち”です。今子育て中の家庭を応援したいという思いから、活動を続けています。私たちは千葉県で2つ目のフードバンク団体として立ち上がりました。主婦発の地道な活動が、「自分たちもやってみよう」と思う人を少しずつ増やし、点が線に、やがて面へと広がることを目指しています。また、食に困る方々は他の悩みも抱えていることが多いため、行政につなぎ、必要な支援を受けられるよう努めています。



今回のプロジェクトの様子
(NPO法人フードバンクふなばし)

Q：独自の取り組みについて教えてください。

毎年10月の「食品ロス削減月間」にはリーフレットを作成し、市内の全小中学校に配布しています。出張授業では、実際の食品を使って支援家庭への食品選びを体験してもらい、子どもたちがフードバンクを自分ごととして考えるきっかけを作っています。こうした学びによって、子どもたちが自発的にフードドライブを始めるといった行動へと繋がっています。



弊会でのインタビュー時の様子（事務局）

Q：今後の活動について教えてください。

ひとり親家庭を対象にした対面型の食料支援会「パントリーピックアップ」を開催し、必要な食品を自由に選べる無料スーパー形式で実施しています。また、毎回の支援会では「教育費・子どもの性の悩み・心と体の健康」などをテーマにした交流会も開催し、専門家の話を聞きながら、参加者同士の繋がりを深めています。この取り組みは、内閣府「令和7年度地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査」にも採択され、単なる支援に留まらず、安心して相談できる場づくりを目指しています。

団体様への インタビュー 3

＜一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき(つなぐBANK)＞ 事務局長 山本様

Q：団体設立の経緯について教えてください。

つなぐBANKは、一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさきの活動から生まれました。福祉会は昭和25年に設立され、平成26年からは長崎県内唯一の「問題解決型子ども食堂」を運営しています。活動の中で多くの食品が集まり、子ども食堂だけでの食品利用だけでなく、子ども食堂利用者にご自宅用として食品を提供してきました。しかし、子ども食堂に来られない家庭からの相談が増え、「食」をどう届けるかが課題になりました。そこでフードバンクの仕組みを活用し、寄贈食品を必要な家庭に確実に届けるため、2年かけて行政や民間団体にフードバンクの必要性を説明し、「つなぐBANK」を運営委員会形式で立ち上げました。

Q：活動にあたって大切にしていることや団体の理念について教えてください。

私たちは「相対的貧困から子どもたちを守る」を理念に活動しています。子ども食堂には貧困や困難を抱えた子どもが多く、学用品が揃わなかったり、学校の購買でパンを買えずに我慢する子もいます。こうした経験は夢や希望を奪ってしまうきっかけになってしまいます。そのため、子どもだけでなく家庭全体の支援を大切にしています。保護者の体調不良時には訪問して家事を手伝い、子どもには無料の学習支援を提供したり、空腹の子どもには、協力するパン屋さんから毎日パンを届けています。活動の中心は「食」であり、食を通じて家庭を支えることで学習や生活の基盤も支援できると考え、食品だけでなく学用品や生活用品も支援する「つなぐBANK」の活動を行っています。

Q：今回のプロジェクトでの具体的な活動とエピソードを教えてください。

今回はLINEで繋がっている2,300世帯以上のひとり親家庭に、プロジェクトの背景や協力企業・団体について丁寧に伝えました。夏休み期間中は支援を強化し、通常は偶数月のみの食料支援を特別に7月にも実施。お米の量を増やし、子どもが一人でも食べやすい食品やアイス、お菓子、学用品も用意しました。さらに企業と連携し、社員食堂での食事付き学習支援やオンライン授業用の機材貸出など、多角的な支援も行いました。支援の背景を伝えたことで、「多くの人やプロジェクトが関わっていると知り、子どもにも話した」という声もありました。中には、子どもと一緒に全国フードバンク推進協議会について調べたご家庭もあり、支援の意味や価値を深めることに繋がっていると実感しています。



今回のプロジェクトの様子
(一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき
(つなぐBANK))



弊会でのインタビュー時の様子（事務局）

団体様への インタビュー 4

<NPO法人フードバンクさが>

代表者 干潟様 事務局スタッフ 嘉村様

Q：団体設立の経緯について教えてください。

「フードバンクさが」は、自分の経験を地域に活かしたいという思いから始まりました。子ども支援や環境分野に関わる中でフードバンクの存在を知り、佐賀にも必要だと感じたことがきっかけです。共感した仲間とともに3人で活動を開始し、福岡や久留米のフードバンクでボランティアをしながら実践を学びました。そうした経験と人とのつながりを通じて、佐賀での設立に至りました。

Q：活動にあたって大切にしていることや団体の理念について教えてください。

フードバンクさがは、「食で人と人をつなぐ」という理念を大切にしています。食べることは生きるうえで大切であり、人の心をつなぐ力もあると考えています。私たちは、単に食品を届けるだけでなく、「食への感謝」や「作り手への思いやり」を忘れず、食品ロスの課題にも食育の視点を持って取り組んでいます。また、子どもの約9人に1人が貧困状態にあると言われる今、地域の大人たちが子どもに関わり、見守ることが大切です。誰かとつながっているという安心感が、子どもや家庭の支えになります。私たちは、食をきっかけに人と人とのつながりを広げ、あたたかい社会を築いていきたいと考えています。



今回のプロジェクトの様子
(NPO法人フードバンクさが)



弊会でのインタビュー時の様子
(事務局・インターン生)

Q：今回のプロジェクトでの具体的な活動とエピソードを教えてください。

やりたいことは多くありますが、今は新たなプロジェクトを立ち上げるよりも、団体の基盤づくりに力を入れています。企業からの寄付や提供先が増える中、県内で食品が有効に循環していることは大変ありがたく感じています。一方で、食品を預かる立場として、「信頼される団体」であることの重要性を強く感じており、食品の管理や在庫確認など、責任ある体制づくりが欠かせません。今後は、より多くの家庭に支援を届けられるよう、ガバナンスや運営体制を強化し、信頼に応えられる団体を目指して着実に取り組んでいきます。

最後に

全国フードバンク推進協議会の活動概要

フードバンクこども応援全国プロジェクト（広報活動）

給食の無い夏休みや冬休みに、全国キャンペーンを通じて企業からの寄贈を受け付け、各地のフードバンク団体と協働して集中的な食料支援活動を行っています。



食品のマッチング

全国規模での食品寄贈の窓口を担うことで、食品関係の企業が自社の食品を寄贈しやすい仕組みを整えています。



フードバンク団体支援

ヒト・モノ・カネが不足するフードバンク団体にノウハウや資金、食品を提供することで、立ち上げや運営を支援しています。



政策提言・調査研究

フードバンク活動への公的支援制度を整備するため、全関係省庁への政策提言や、情報収集・調査研究事業を行っています。

ご支援のお願い

全国フードバンク推進協議会では、SNSでフードバンクに関連する情報や活動内容を発信しています。

広める



寄付

〈銀行振込〉

口座名義：一般社団法人全国フードバンク推進協議会 一般口
銀行名：三井住友銀行 小金井支店
口座番号：(普通) 4038519

〈郵便振込〉

口座名義：全国フードバンク推進協議会
記号：10820 番号：16540841

〈クレジットカード〉

右のQRコードよりお手続きください。





〒169-0074
東京都新宿区北新宿1丁目8-17 土方ビル 7F



03-6912-9444



info@fb-kyougikai.net



HPはこちら